

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	0390900025
法人名	社会福祉法人室根孝養会
事業所名	孝養ハイツ グループホーム
所在地	岩手県一関市室根町折壁字向山67番地3 (電話) 0191-64-3923

評価機関名	(財)岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成20年3月14日	評価確定日	4月22日

【情報提供票より】(20年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9 人, 非常勤	人, 常勤換算 8.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り 平屋建て
	1階建ての 階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費(月額)	各実費分あり 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	9 名	男性 6 名	女性 3 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	- 名
要介護5	- 名	要支援2	- 名
年齢	平均 79 歳	最低 67 歳	最高 87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	一関市国民健康保険室根診療所、一関市国民健康保険室根歯科診療所
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成19年3月に開設されたグループホームで特別養護老人ホーム、デイサービス、生活支援ハウスなどの施設が総合的に広い敷地の中に設立されている。利用者は男性が6名、女性3名と男性が多い構成となっている。男性利用者が多いことにより一人ひとりの利用者が新聞を読んでいたりと、思い思いにホールで過ごされている姿がよく見られていた。また、買い物に職員が出かける時には荷物が重いだろう、と一緒に出かけ職員を手伝っている気づかいの光景が見られた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者、計画作成担当者ともに認知症介護の経験年数も長く、他の職員の育成や利用者の個性の把握等、グループホームの基礎づくりに励まれた1年だったことが感じられた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	初めての外部評価にあたり、自己評価することで職員も日ごろの介護の見直しのきっかけとなった。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、利用者の代表、利用者の家族代表、市職員、10区自治会長、施設長、職員の構成となっている。地域の消防署の職員や警察・民生委員など毎回参加は困難でも、関連のあるテーマでは参加をお願いするなど、今後参加者の見直しにより色々な意見が聞かれる取り組みも期待していきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族には面会に来られた時には様子を伝えたり、ご意見がないか常に声掛けをしている。直接話しにくいこともあるのではないかと、玄関に意見箱の設置を考えている。定期的に項目を設定し、アンケートの形でご意見が聞ける取り組みを行うなどして、よりご家族からの要望の聞き取りへの工夫を望みたい。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	隣接しているデイサービスの利用者の利用日にあわせてデイを訪問することもあったが、冬季間はあまり外出はされていない。買い物は1km位の距離もあり、車で出かけている。老人ホーム、支援ハウス、デイサービスが併設されていることもあり、地域との接点は少ないように思われる。運営推進会議などを利用し、自治会活動に参加される等の働きかけをしてみることで、地域との連携につながると思われる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	本体施設の理念をもとに職員皆で話し合い理念を作った。「認知症のある利用者の個性を尊重し、日常生活を通して、利用者の好きなことや、望むことを生き生きと自分に合ったペースで行うことが出来るよう支援します。」となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示は特になされていないが、広い意味を持っていることにより職員個々のイメージによる理念となっている。	○	掲示等によりご家族や来所される地域の方々にグループホームの姿勢が伝わることと思われる。また理念はあるが職員共通の理念になるよう安心とは何か？尊厳とはどんなことか？を話し合うことによりホームの理念としてより浸透していくものと思われる。安心した生活のためにはどのように支援していくか等目標を決めた援助により職員も介護の評価が出来ると思われる。今後の取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	文化祭や夏祭りの参加となっている。立地的にも高台にあり特別養護老人ホーム、支援ハウス、デイサービスなど併設され、ご近所との交流は特になされていない。	○	地区自治会の参加により地域の方々と一緒に参加できる行事には参加しながら、利用者・職員共に地域の方々と顔見知りになれるよう、また幼稚園や小・中学校との交流や利用者の生活していた地区の敬老会への参加など地域に密着した生活が継続できるよう期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年開所された施設であり、今回が初めての外部評価となっている。職員は自己評価により新たに自分たちの介護の見直しや気づきがあり、今後の発展を期待する。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者代表、利用者家族、一関市職員、10区自治会長、施設長、職員の参加となっている。		民生委員や、キャラバンメイト、また議題によっては消防署の職員や地元警察からの参加により、活発な意見の広がり期待出来るものと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の運営推進会議の参加がなされている。さらに地域包括支援センターや市の福祉課との連携によりグループホームの地域への浸透が図れるよう期待する。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に状況報告や金銭預かりの報告をしている。また転倒や体調不良時にはその都度電話で報告がなされている。また職員の異動は開所1年でもあり事例はない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に苦情は聞かれない。何かご意見がないか面会に来られた時には常に声掛けをしているが、話し難いこともあるのではないかと配慮しご意見箱の設置を検討している。		苦情ではなく、ご要望がありましたらお願いします。というような問いかけであれば家族もより話しやすくなることと思われる。また来所時に簡単に記入できる満足度をうかがえるアンケートも有効と思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームは職員の異動が少ないことにより、職員と利用者の馴染みの関係が出来るよう支援している。またそのように施設長にお願いをしている。		異動の必要がある場合は併設施設との交流により、日ごろから顔見知りになることで、異動によるダメージが軽減できるよう配慮していられることも有効と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修会が年に3回あり、当日夜勤勤務している職員以外は出来るだけ参加している。外部研修は6回出席し、復命書を回覧したり、復命報告会を開催している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、毎月の定例会に参加している。また両盤地区のグループホームとの交流会が年1回ある。	○	他のグループホームとの交換研修等により、自らの優れている点や不足している点の気付きとなり、職員の励みともなると思われるので今後の積極的な取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学に来られる形ではなく、職員が自宅を訪問して入所に至っているケースが多い。老人保健施設等を利用され、慣れてきたことあるのか大きな混乱はない。また徘徊や不穏の見られる時には、その都度気分転換が出来るよう散歩や声掛け、見守りなどに徐々にホームになじめるよう支援されている。	○	利用前に見学や短期利用等により、ご本人は勿論ご家族もグループホームの生活や理念等を理解され、納得のいく形で利用できるよう段階的な支援により、暮らしの場所が変わる時の利用者やご家族の不安の軽減が図れることと思われる。段階的な支援の工夫を共に行っていくよう望みたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	べごっこ(猫柳)の歌や昔のことを教わったり、「早く休ませ」また夜勤明けには「ゆっくり休まいね」など利用者から声をかけていただいたり、職員が気がつかないうちに外に利用者が出て行ったことを教えてください、大事に至らなかった事など職員が教わることや助けられることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入浴の時など個別に対応できる時間に、利用者の思いを語られる機会があり、その言葉を大切に援助していきたいと思っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成者が利用開始時に、ご家族や利用者の情報をもとに作成している。ご家族には状態報告や意見を聞く努力がなされているほか、また夜勤での様子は申し送りノートを活用している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用開始時にプランが作成されているが、介護度の状態の改善された利用者や、より介護の必要となっている利用者もおられたが、プランの見直しの記録は確認できなかった。	○	利用者個々に担当職員が中心になって支援されていたが、利用者の状態の改善や変化を担当職員と計画作成者で話し合い、プランに反映することにより、利用者にとって適切なプランに発展していくことが必要と思われる。また職員がプラン作りに参加することで、利用者への理解が深まり身近な学習の機会となることと思われるので今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療機関への通院は職員が行い、ご家族にその都度報告がなされている。専門病院はご家族が行っている時もあるが、職員が対応している時もある。通院の帰りに家に帰りたいと希望されるときには納得していただけるような対応をしている。また居室に泊まることも出来るとご家族に説明しているが、現在のところ希望はない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専門医の通院が必要な利用者は日常生活をよく知る職員が、通院対応できるようにしている。専門医、泌尿科には家族の協力を得ながら職員も付き添い支援等している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した時には退所をお願いすることもあるとご家族に説明している。終末期の希望はご家族や利用者共に確認する機会は持たれていない。	○	ご家族や利用者の意向を知ることにより、希望される終末を迎えることが出来ると思われる。手厚い医療を希望されるか、自宅で看取りを希望されるか、また養護老人ホームを希望されているのかで、支援方法も異なり、重度化した場合はご本人より希望を聞くことは困難となることも予測される。日常の会話の中でも利用者の言葉で話される時もあり、改めて聞くよりはそのような機会を逃さないで聞いていって欲しい。本人、家族等、かかりつけ医、看護師等との早期からの話し合いと、方針の共有については今後の課題である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	開所時からグループホームに適した職員が配属できるよう施設長の考慮もあり、穏やかな職員の皆さんである。“使ってはいけない言葉”があり日常の会話の中で職員同士が気づいたときや声かけ等をして対応している。また個人情報の管理は事務室で適切に行われていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が2、3名で散歩に出かけ、室根山を眺めて帰って来られることもある。食べたい物の希望は出来るだけ取り入れるようにしており、利用者からの希望が聞かれた時にはグループホームに馴染んでいただけるようになったと職員間で喜びあった。昼夜逆転のある利用者以外は起床時間もご本人の希望に添えるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは利用者の希望やチラシを見て、その時々で対応している。男性利用者が買い物の荷物を持ってあげたいと、買い物に同行されていた。また調理や食器を下げるなど、利用者の参加が見られていた。		栄養士からのアドバイスを年に1、2回受けるなど専門家によるチェックが行われていると、バランスの良い食事内容となっているかどうか確認が出来ると思われる。今後検討して行って欲しい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には、希望があれば毎日の入浴が可能となっている。入浴の拒否のある利用者にはタイミングを見計らい声掛けがなされ、少なくとも週2回は入浴していただけるよう努力されている。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問した日は利用者の誕生会で、二人の利用者がお祝いされていた。ご本人の希望でお昼はお刺身、もう一人の方の希望で夕食はお肉料理を予定されているとのことで、得意の歌や踊りを披露していただいた。野菜作り、干し柿づくり、掃除などご本人の主体性を尊重した生活支援がなされている。	○	一人ひとりの生活歴や家族の希望、有する力を踏まえながら、より充実した介護計画にそった支援に取り組まされることに期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季は雪もあり予定以外の外出はしていない。食前に嚙下体操や日中はソフトバレー等を楽しまれている。今後、個別に利用者の希望に沿った外出ができるような支援への取り組みを期待する。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。またチャイムに頼らないようにと、チャイムの設置はしていない。広い敷地内に特別養護老人ホーム、デイサービスが隣接されていることにより、危険が少ないので可能となっている。また女性利用者から居室に鍵の設置の希望があるが、職員の安否確認の必要性を説明した上で設置も可能になるのではないかとと思われる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は法人全体で消防署や地域協力隊の「あいあい会」の協力で年2回実施されている。グループホーム単独での避難訓練や、また日ごろから地震の時にはテーブルの下に隠れるなどの訓練は手軽にでき有効と思われる。		非常口の階段はスロープや手すり等の設置により、スムーズな避難につながると思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取の少ない利用者には一日1,000ccを目安に水分が摂取できるよう支援している。薬を飲む時に薬を1個飲むごとに水分がとれるよう1個1個渡す等工夫している。また体重の減少のある利用者にはカロリーメイトやゼリー等で、糖尿のある利用者には野菜が多く取れるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	男性利用者が多いことによると思うが、個々に座り思い思いに新聞を読んだり過ごされている姿が特徴的であった。職員との交流により穏やかに過ごされている。活動時の写真の展示や、季節により手作りお雛様や、クリスマスツリー、繭団子、神棚飾りなどの季節感を取り入れた空間作りがなされている。また地元を象徴する室根山の四季の移り変わりが生活の中の楽しみであり、利用者で散歩に出かけ眺めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ソファーや座イス、お茶道具、筆筒、孫の写真等が持ち込まれている。契約時に慣れ親しんだ物を持ち込んでいただけるようお話している。部屋もきれいに整理され安心して過ごすための環境づくりに支援されている。		